

NO-NO BOY から考える

～他者との違いを超えて問う、自分は何者か

ジャーナリスト、ノンフィクションライター

川井龍介氏



日系アメリカ人2世、ジョン・オカダが残したたった一冊の小説『No-No Boy』は、戦争によって日米という“二つの祖国”に引き裂かれたアイデンティティーの危機というテーマを真正面からとらえている。

日本もアメリカも選ぶこともできなかった若き主人公イチローは、徴兵を拒否して逮捕され刑務所に入る。戦争が終わり出所し故郷のシアトルに戻ったイチローは、国家、人種、世代の“違い”を肌身で感じながら、自分は何者で、どう生きるべきかを自問し、苦悩する。

アメリカをはじめ“違い”に対して、社会に不寛容な空気が感じられるいま、イチローの苦悩とは何かを考え、問い直してみる。あわせて稀有な歴史をたどった幻の名著ともいわれるこの小説の魅力を考える。

12/14

WEDNESDAY

7:00-8:30PM

東京大学駒場キャンパス
18号館4階コラボ3



The University of Tokyo

Integrated Human Sciences Program for Cultural Diversity (IHS)
Project 5 “Cultural Diversity and Imagination”
The Lecture Series 2016 “Critiquing Diversity”